

# 大腿骨骨折患者における在院日数が長期化する要因 ～患者の QOL の維持と早期退院に向けて～ に関する研究へのご協力のお願い

このたび、東京歯科大学市川総合病院 6 階東病棟では、「大腿骨骨折患者における在院日数が長期化する要因～患者の QOL 維持と早期退院に向けて～」(QOL：生活の質、以下：QOL)という臨床研究を行っております。皆様方におかれましては本研究の趣旨をご理解のうえご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究は、東京歯科大学市川総合病院倫理審査委員会で審査され病院長の許可を得て実施しております。

## 1、研究概要

### 1) 研究背景及び目的

急性期病院では、国の保健医療政策による在院日数の短縮化や地域完結型医療への転換が推奨され短期間で退院支援を進めていくことが求められています。当院では約 3 年前から退院調整看護師が中心となって退院調整を行っております。この 3 年間で患者様の退院後の生活を見越した看護支援の必要性について病棟看護師の意識は向上し、入院時から積極的に支援に取り組んでおりますが、大腿骨骨折患者様の在院日数の短縮化に困難さを実感している現状です。患者様におかれましても入院が長期化することはデメリットとなることも少なくありません。長期入院は認知面や日常生活動作（以下：ADL）が更に低下することが懸念されます。今回、大腿骨骨折で入院し退院又は転院した患者様のカルテから情報収集を行い、看護の視点から在院日数が長期化する要因の分析を研究目的としております。

### 2) 予測される看護上の貢献及び研究意義

大腿骨骨折患者様の長期入院の要因を明らかにすることで、今後の患者様の QOL・ADL の維持と向上を検討するため、また今後の看護の発展にこの研究は意義があると考えております。

## 2、研究方法

### 1) 研究対象

2017年4月から2018年3月までに当病棟で大腿骨骨折に対して手術を施行した患者様。

### 2) 研究方法

カルテをもとにデータ収集を行います。患者様ご自身に直接ご連絡を取ることはございません。

### 3) 使用する情報

カルテから以下の情報を使用させていただきます。個人情報には削除しナンバリングし漏洩しないように配慮致します。

・年齢、性別、在院日数、入院から手術までの日数、入院形態、緊急入院時の情報収集内容、手術日まで時間がかかった要因、退院先、受傷原因、疾患、術式、既往、骨粗しょう症の有無、骨粗しょう症治療、抗血栓薬の有無、認知面低下の有無、元々のADL、同居者、キーパーソン、退院支援の希望、入院前の生活役割、入院前の生活状況、医療従事者との初回面談日、自宅状況、退院後の意向、介護保険、リハビリ状況、術後免荷の有無、術後合併症

### 4) 試料・情報の取り扱い

患者様の情報収集を行ったデータ管理については研究担当者が厳重にナースステーションで管理し研究終了と共に研究者が責任をもって5年間保管後速やかに破棄致します。

### 5) 費用

この研究により、新たな検査や費用が生じることはございません。また、情報を使用した患者様への謝礼等もございません。

### 6) 研究の公表

本研究の結果は院内の研究発表会や学会などで公開されることがあります。

### 7) 研究計画書の開示

ご希望がございましたら個人情報の保護や研究の独自性の確保に支障がない範囲で、この研究計画書の資料などを閲覧または入手することができます。

本研究へご協力が了承されない場合やご協力を撤回される場合にはお申し出ください。本研究のご参加の可否により、患者様の治療に不利益が生じることはございません。

今後のより良い看護の発展ため本研究の趣旨をご理解のうえご協力頂けましたら幸いです。

お問い合わせ

〒272-8513

千葉県市川市菅野 5-11-13 東京歯科大学市川総合病院

TEL 047-322-0151 研究責任者：6階東病棟 小川弘果